

「アースミュージアム」プロジェクト

岩本 泰^{*1}・梶井龍太郎^{*2}・室田憲一^{*1}・藤巻裕之^{*3}・木下理仁^{*4}

1. はじめに

教養学部の特長として、環境・芸術・国際という三つの専門領域が学科として一つの学部に共存していることにある。SOHUM プロジェクトは、学部共通科目「人間学1」「人間学2」授業と連動して、異なる専門領域の学科学生が選択的に履修し、幅広い視野と共通の理解を深めることに配慮する必要がある。こうした学部の特長を考慮して、本プロジェクトの授業としてのねらいが設定されている。その授業課題のコンセプトは、以下の通りである。

私たちが暮らしている地球。私たちが便利で快適な生活をおくることができるようになった一方で、明日の暮らしが保証されていない人々も、この地球上で同じ時間を過ごしている。そうした問題の本質に、日本で暮らしている私たちのライフスタイルが深く関係しているとしたら、私たちは何を考え、これからをどう生きるべきなのだろうか。

この授業では、過去を学び、現在を見通し、未来を想像し創造する力、すなわち豊かな「人間力」の獲得を目的として、先進的に活動をしている人を招聘したイベント（講演会等）を企画・立案・運営する活動を自ら考え、集い、挑み、成し遂げる体験を通して、履修した学生が社会で活躍する人材に成長することをめざしている。その上で、商業的な利益や経済的な効率に対して批判的思考を持ち、一人一人が共に生きることができる公正な地球社会づくりへの参加に向けた具体的な行動（Action）へのきっかけづくりの場とすることを目的として、本授業プロジェクトを開講した。なお、2014年度の授業コンセプトにおいては、「身近なものの世界とのつながりを考える」であった。

2. 人間学1 児童労働問題を考える特別講演の実施

人間学1は、プロジェクトコア教員に加えて、芸術学科デザイン学課程の戸谷毅史氏を加えて、5人の専任教員でそれぞれの専門性からの講義を実践した。加えて、世界の子どもを児童

受理日2015年11月25日

*1 教養学部人間環境学科自然環境課程 *2 教養学部芸術学科音楽学課程

*3 教養学部人間環境学科社会環境課程 *4 教養学部国際学科

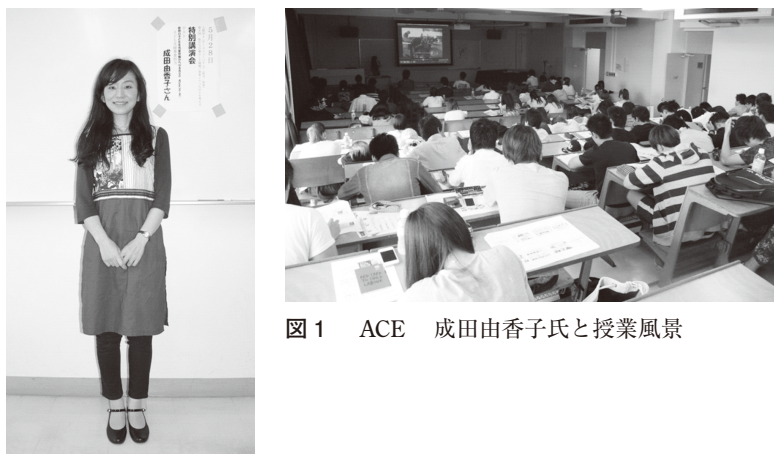


図1 ACE 成田由香子氏と授業風景

労働から守る NGO ACE (エース)¹⁾ に協力を依頼，子ども支援事業部門（インド担当 チーフ）の成田由香子氏を本学に招聘，2014年5月28日に特別講演を実施していただいた。

当日は，ACE の活動概要，児童労働が世界でなくならない本質的な背景，ACE がすすめる「 Cotton のやさしい気持ち」プロジェクトの概要を中心に講演いただいた。また，ACE の活動トピックとして，森永製菓とコラボした「1 チョコ for 1 スマイル」キャンペーン，世界的ジーンズメーカー エドウィンググループのリー・ジャパンとコラボした「エシカル・ファッション・カレッジ」等エシカルファッションの可能性についてご紹介いただいた。さらに，成田氏の活動フィールドであるインドでのフィールド調査についても，動画を交えてご紹介いただいたことで，学生にとってはファッションから社会を変えるアプローチについていろいろ考えるきっかけとなった。本授業を履修した学生からは，「今日の講義を受けて，特に今着ている Cotton 製品は，どこでつくられたものかみてみるようにしたい」「自分たちが着ている服の裏側にこんなにも問題があることに，本当に驚きました」「世界の現状を知ることはとても大切だと思ったし，今後は商品を選ぶこともちゃんと考えていきたい」といった，様々な反応があった。ぜひこれを機会に，身近にあるもののサプライチェーンについてしっかりと考える力を養い，児童労働といった国際問題に知らぬ間に関与していないかどうか見極められる消費者として，そして企業に就職したときには，企業活動において短期的な利益を追求するあまり，大切なことに気がつかないことにならない社会人として成長してほしいと考える。なお，本授業では，世界の児童労働にレッドカードを掲げて反対の意思表示をする「ストップ！ 児童労働ネットワーク キャンペーン」²⁾に参加した。

3. 人間学2 「エシカルファッションで社会を変える」イベントの実践

教養学部3年次以降の自己形成科目である「人間学2」の一環としては，（独）国際協力機構 横浜国際センターの後援協力により，2014年11月8日に公開セミナー「エシカルファッシ



図2 「ストップ児童労働ネットワーク キャンペーン」 レッドカードアクション

ョンで社会を変える～コットンから考える現地と日本での現状と取り組み～」を、独立行政法人国際協力機構（JICA）横浜国際センターで開催した。この催しは、環境への負荷などに配慮した「エシカル（倫理的な）ファッション」³⁾の知識を深め、身近な暮らしから社会を変え、国際社会に貢献するためのヒントを学ぶために企画実施された。当日は、NPO 法人ACE（エース）の子ども支援事業チーフ、インド・プロジェクトマネージャーの成田由香子氏と、フェアトレード専門ブランド「ピープル・ツリー」⁴⁾を手がける、フェアトレードカンパニー株式会社の鈴木史氏（企画・マーケティングシニアマネージャー）を講師に招き、講演やトークセッション、グループワークを実施、学生や教職員、ファッション関連企業の担当者など約40名が参加した。

成田氏は「コットン生産での児童労働と私たちとのつながり～インドの現状と国際協力および日本での取り組み～」をテーマに講演。インドでは40万人以上の子どもが危険な農薬を使用しながらコットン畑で働いている現状を解説し、「すべての子どもたちに教育を受けさせることが目標です。そのためには、公立学校や教員を充足させるとともに、大人が安定した収入を得られるようにしなければならない」と語り、ACEがインドと日本で実施している具体的な取り組みについて講演した。また、「企業によるエシカルファッションのソーシャルビジネスの現状と課題」と題して講演した鈴木氏は、フェアトレードによる衣類の企画、製造、販売について、インドやネパール、バングラデシュでの取り組みを紹介。「手織り、手編み、手刺しゅうといった、現地の人々が継続して続けられる手仕事を生かすことが大切」と語り、デザインと機能性にすぐれ、環境に配慮した価値の高い製品を作ることで途上国の人々に収入の機会を提供していることについて講演した。

休憩後のトークセッションでは質疑応答や意見交換を行った。参加者からの「文化や価値観



図3 左 ACE 成田由香子氏・右 ピープル・ツリー 鈴木史氏



図4 セミナーの様子

の違う人々との交渉や、チームをまとめるために必要なことは何か」との質問に、講師からは、「お互いに理解し信頼し合えるまで、心を開いてねばり強く話し合うことが大切」とのアドバイスがあった。またグループワークでは、「エシカルファッションで社会を変えるために自分ができること」をテーマに、エシカルコンシューマー（倫理的な消費者）として何を基準に購買活動を行うべきかについてディスカッションを実施した。

参加した学生からは、「エシカルファッションを通じて社会貢献をしたいと考えて勉強してきましたが、今日の講義で、途上国には深刻で根の深い問題が存在することをあらためて認識しました。グループワークでは、さまざまな考え方があるということに気づいたのが大きな収穫。今後は、より幅広い視点でエシカルファッションによる国際貢献について考えていきたい

東海大学教養学部 SOHUM「アースミュージアム」公開イベント

エシカルファッションで社会を変える

～コトンから考える現地と日本での現状と取り組み～

過去から現在に続く地球の持続可能性の課題について、昨年に引き続き、世界の子どもの児童労働から守るNGO「ACE」協力のもと、「エシカルファッションで社会を変える」可能性を考えるイベントを開催することになりました。このイベントをきっかけに身近な暮らしから社会を変えるこれからの国際協力へのヒントについて、一緒に考えてみませんか？

日時：2014年 11月8日(土)
13:30～16:30(13:00 開場)

会場：(独)国際協力機構(JICA)横浜国際センター
4階セミナールーム「かもめ」
<http://www.jica.go.jp/yokohama/office/access.html>
JR 桜木町駅 徒歩 15 分 / JR 関内駅 徒歩 15 分 / 馬車道駅(みなとみらい線) 徒歩 8 分
<ご来場は、公共交通機関をご利用ください>

- **講演：コトン生産での児童労働と私たちとのつながり**
～インドの現状と国際協力および日本での取り組み～
講演者：成田由香子さん(特定非営利活動法人「ACE」子ども支援事業(インド担当))
- **講演：企業によるエシカルファッションのソーシャルビジネスの現状と課題**
講演者：鈴木 史さん(ビーブル・ツリー(フェアトレードカンパニー(株))
(企画・マーケティング シニアマネージャー))
- **エシカルファッション トークセッション**
エシカルファッションの紹介と講演者によるトークセッション
<参加費：無料・事前申し込み制>
(以下連絡先にメールにて申し込みください！申し込み締め切り日：11/6)
主催：東海大学教養学部 SOHUM「アースミュージアム」プロジェクト
協力：(特活)ACE
かながわ開発教育センター(K-DEC)
後援：(独)JICA 横浜国際センター




<お申込み・お問い合わせ・連絡先>
東海大学教養学部
人間環境学科自然環境課程
自然環境準備室 (担当：岩本)
TEL: 0463-58-1211(代)
FAX: 0463-50-2208(直通)
E-mail: (参加申し込みアドレス)
tokai_ee@yahoo.co.jp
氏名・ご所属・ご連絡先(メールアドレス)
をご連絡ください。

東海大学 教養学部

※東海大学教養学部 SOHUM「アースミュージアム」プロジェクト
東海大学教養学部の学部共通科目「人間学」授業の一環として、過去を学び、現在を見直し、未来を想像し創造する力、すなわち豊かな人間性の獲得を目的として開発されているプロジェクト実習科目です。特に本授業では、先進的に活動をしている人を招聘したイベントの企画・運営に学生と教員がスタッフとして参画することで、社会で必要とされる行動力の向上をめざしています。世界の子どもの児童労働から守るNGO「ACE」さんは、昨年からの協力を依頼しています。

関連ホームページ: <http://www.she.u-tokai.ac.jp/prj/>

※世界の子どもの児童労働から守る NGO ACE(エース)
ACE は「世界中のすべての子どもが権利を守られ、希望を持って安心して暮らせる社会」を実現するため、1997 年に学生有志が設立した、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力 NGO です。
インドとガーナで子どもを危険な労働から守り教育を支援する現地プロジェクトの実施、日本で児童労働の問題を伝える啓発活動、政府や企業への提言活動、ネットワークやソーシャルビジネスを通じた問題解決の活動を行っています。
平成 23 年度 社会貢献支援財団「社会貢献者表彰」受賞、2012 年には米国労働省「児童労働撤廃のためのイクバル・マン・賞」にノミネートされました。
オフィシャルホームページ: <http://acejapan.org/>

講演者：成田由香子さんプロフィール：
特定非営利活動法人 ACE(エース) 子ども支援事業インド担当。インドのタタ社会科学研究所ソーシャルワーク修士課程修了。その後、日本で産業別労働組合、インドで在印日本大使館に勤務し、政府や NGO 等による人権・社会開発・福祉分野での取り組みについて学ぶ。2007 年 5 月より現職。
※ACE「コトンのやさしい気持ち」プロジェクト
「コトンのやさしい気持ち」プロジェクトは、40 万人以上の子どもが働いているインドのコットン生産地域で、危険で有害な児童労働から子どもたちを守るため、ACE がインドと日本で取り組んでいる活動のことです。
関連ホームページ: <http://acejapan.org/cotton>

講演者：鈴木 史さんプロフィール：
ビーブル・ツリー 事業開発シニアマネージャー。
商品開発の企画・制作から、営業、マーケティングまで一連の業務を統括。
高校在学中にアメリカに留学。大学卒業後、通信販売の出版社に入社し、新商品開発、プロモーション企画など担当する。退職後、文化服装学院に入学。卒業後、広報やデザイナーの仕事を経て 2008 年にビーブル・ツリー(フェアトレードカンパニー株式会社)へ入社。MD 兼デザイナーとして現地で商品開発などを経験した後、現在、商品開発の企画・制作から、営業、マーケティングまで一連の業務を統括している。

※ビーブル・ツリー
ビーブル・ツリーはフェアトレードとサステナブルファッションのバイオニアです。世界で初めて世界フェアトレード機関(WFTO)によるフェアトレード認証ラベルを得ており、また世界で初めて「ソイラアソシエーション」(オーガニック認証機関)から連上国で生産されたオーガニック製品の認証を得ています。私たちは手織り、手縫み、手刺繍といった手仕事を活かすことで、途上国の人びとに収入の機会をつづけています。フェアトレードとエコロジーの最高水準を満たしながら、洗練されたデザインと手頃な価格でファッションやライフスタイルを楽しむこと、人と地球を守ることの両立を目指しています。
オフィシャルホームページ: <http://www.peopletree.co.jp>

図 5 セミナー案内のチラシ

い」と感想を綴っていた。

4. おわりに

実践的な国際理解教育の一環として、本年初めて「エシカルファッション」を学習の中心的なキーワードに設定した。本実践を通して、以下のような点が次年度に向けての教育研究の検討課題として浮かび上がった。

①問題構造の複雑さ

昨年度からの継続的な学習として、児童労働問題の理解・問題解決を考えることからプロジェクト内容を組み立てたが、「ファッションから考える世界とのつながり」の本質を理解することは、まだまだ試行錯誤が必要である。また、とすると、「児童労働」という日常生活で実感しにくいトピックゆえ、「違う世界のお話」で終わってしまうことが否めなかった。今後、問題構造の本質にある資本主義・グローバル経済・自由貿易の弊害について、継続的に実践を工夫する必要がある。そのためには、身近なものの生産から消費へのサプライチェーン構造について、どのようにわかりやすく理解できるのか工夫することや、環境(農薬・遺伝子組み換え・水)・人権(現代の奴隷的労働・児童労働)・貧困の国内基準の違いにかかわる情報の整理と理解の深まりについて配慮した学習活動が必要である。

②エシカル／フェアトレード商品の価格帯の高さ

解決に向けた行動の選択肢として、フェアトレードやエシカル商品は重要である。一方で、そうした商品の背景を理論で理解することはできても、現実的に学生目線で価格帯が高いため、消費行動（buycott）に結びつきにくい、という課題が浮き彫りになった。日常生活において消費行動で学生が自由に使えるお金には限度がある。一方で、限られたお金を何に使うことが社会にとって有益なのか、ものの価値について考えるきっかけを提供するのは、大学生にとって重要な時期でもある。実際の有益な消費行動は、学生が社会人になってからに期待するところが多いが、どのような学習の機会を提供するのが効果的なのか、さらに検討することが必要である。

③ライフスタイル・豊かさの本質の問い直し

身近なものが世界とどのようにつながっているか学習を深めていくと、それぞれのものができるまでのストーリーが背景にあることが明らかになる。20世紀型の消費は、大量に生産されたものを大量に消費し、古くなったものはすぐに大量に廃棄する、という環境や地球に過度に負荷をかけた暮らしを是とする価値観に支配されている。一方で、過度な安さの追求により、その安さが原産地や生産地の人々の暮らしを劣悪な状況に追い込んできたことも事実である。フェアトレードやエシカル商品は、本質的には問題構造の背景をしっかりと理解し、これからのエシカルな暮らしのあり方、誰も不幸にしない価値観の創造など、ライフスタイルや豊かさの本質の問い直しに迫られる。こうした世界観を学習に関わったすべての人たちが共有することは非常に難しいことではあるが、その学習のあり方を問い続けながら教養学部 SOHUM プロジェクト実践として、教育研究を継続していきたい。

5. 謝辞

本実践は、2014年度の東海大学教養学部 SOHUM プロジェクト助成金により実施された。関係各位に感謝申し上げます。また、ACE 代表の岩附氏、事務局長の白木氏、子ども支援事業担当（インド）チーフの成田氏、(株)フェアトレードカンパニー 企画・マーケティングシニアマネージャーの鈴木史氏には、本プロジェクト実践において、たくさんのご助言をいただいた。ありがとうございました。

注

- 1) 世界の子どもの児童労働から守る NGO ACE（エース）については、以下 HP を参照。
<http://acejapan.org/>
- 2) 「ストップ！児童労働ネットワーク キャンペーン」については、以下「児童労働ネットワーク (CLNet) の HP を参照。
<http://cl-net.org/campaign2015/>
- 3) 「エシカル」については、例えば以下文献を参照。
『まだ“エシカル”を知らないあなたへ』（デルフィス エシカル・プロジェクト編著）産業能率大学出版部（2012）

- 4) ピープル・ツリーについては、以下 HP を参照。

<http://www.peopletree.co.jp/index.html>